抗 D が同定されたことで Partial D が判明した一症例

◎大塚 幸成[1)]、千葉 明日香[1)]、織田 喜子[1)]、渡辺 智暁[1)]、熊谷 佳奈江[1)]、石井 直美[1)]、渋谷 賢一[1)]
越谷市立病院[1)]

【はじめに】Rh 血液型 D 抗原には複数の変異型があり,その一つに一部のエピトープが欠損している PartialD がある.日本人での PartialD 頻度は 10 万から 14 万人に 1 人であり,D 陰性に比べて抗 D を産生する可能性は低いと考えられている.検査においては一部の抗 D と反応しない,あるいは D 陽性赤血球に比べて反応性が弱い場合がある.

今回,我々は抗 D が同定されたことで PartialD が判明した症例を経験したので報告する.

【患者背景】30 代黒人女性.第 3 子妊娠中,在胎 37 週 4 日で紹介受診.輸血歴・移植歴なし.

【結果】ORTHO-VISION（Quidel Ortho）にて血液型検査と不規則抗体スクリーニングを実施した.結果は A 型 RhD 陽性,不規則抗体陽性となった.続いて実施した不規則抗体同定検査の結果,抗 D が同定された（自己対照：陰性）.

抗 LW または抗 D を産生した PartialD 患者を疑い,追加検査を実施した.抗 LW は D 陰性血球と比べ D 陽性血球と強く反応し,抗 D 様の反応を呈する.また LW 抗原は DTT 処理で抗原活性が減弱する.抗 LW 鑑別のため,パネル血球を DTT 処理し,間接抗グロブリン試験を実施した.処理後血球の反応性に変化はなく,抗 LW は否定された.

次に PartialD の特定のため,複数の抗 D 試薬を用いて RhD 検査を実施した.しかし当院の試薬では反応性に違いは認められなかった.自施設での抗体同定は困難であると判断し日本赤十字社に検査を依頼した.日本赤十字社での Partial D 判定キットを使用した検査にて,PartialD（カテゴリー DIV）が確認された.

【経過】在胎 38 週で経腟分娩にて出産,出血も少なかったため輸血は実施しなかった.また児の血液型は A 型 RhD 陰性であり,溶血性貧血を疑う所見はなかった.

【まとめ】血液型検査における判定は RhD 陽性であり,抗 D が同定されなければ PartialD を発見することはできなかった.近年では国外の患者も増加傾向にあり,国内ではあまり遭遇しない症例に接する機会が増えてきている.頻度に人種差の認められる検査については,より一層の注意が必要である.

連絡先　048-965-2221（内線 2259）